

第IV部門 バスフリー乗降サービスの効果評価とその発展的課題

大阪市立大学工学部 学生員 ○森田 隼一
河内長野市交通政策課 非会員 松坂 啓佑

大阪市立大学大学院工学研究科 正会員 日野 泰雄
河内長野市交通政策課 非会員 田中 亮

1. 研究の背景と目的

高齢化や核家族化が進む中、移動支援としてのバスサービスの必要性が高まっている。しかし、十分な需要が見込めないため、従来型のサービスでは対応が難しい。そこで、様々な取り組みが行われているが、利用者ニーズに合わず、失敗に終わる事例も多い。そのため、明確な目的の下に新たな試みを導入し、課題を提示することで民意を高めつつ、選択行動を転換させる条件(利便性)の改善を検討することは意義深いと考えられる。

そこで、本研究では、大阪府河内長野市で導入された3つの試行的試み(日曜日同伴者割引、路線バスのコミバス同一区間同一料金、フリー乗降)のうち、高齢者の移動支援策として2事例目になるフリー乗降サービスに着目し、先行事例についての調査による導入プロセスの検討、地区住民へのアンケート調査に基づく効果評価と今後の展開に向けた課題抽出を目的とした。

2. 先行事例に基づく導入プロセスの検討

対象地区(荘園町)は坂の多い地域であることから、約4割を占める高齢者の移動支援を目的に、平成23年の7月にフリー乗降サービスが導入された。

しかし、その利用実態、導入地区での取り組みなどは明らかになっておらず、今後サービスの継続や他地区への展開を図るためには、情報の収集とそれに基づく導入プロセスの確立が求められる。そこで、主として事業者へのヒアリング調査を行った(表-1)。これらの内容を再構築すると図-1のようなプロセスが想定された。この内、特に乗降の道路条件については乗務員による現場判断とされ、事前の住民の十分な理解が重要とされた。

表-1 サービス導入に関するヒアリング内容

項目	内容
導入契機	事業者からの提案理由
計画案検討	公共交通会議での提案
警察協議	危険箇所確認と事故時の対応
道路条件	現場判断
乗降判断	乗務員による乗降判断
関係者協議	安全利用に関するルール
住民対応	住民説明

このことは、住民調査でも、導入後の認知度は高いが、導入前の関わりが希薄であるとされたことからもうかがわれる。

3. サービスに対する住民調査

サービスの利用実態や課題を把握するために、導入地区への配布調査(表-2)を行った。

(1) サービスの認知

両地区とも約9割がフリー乗降を知っていると回答しており、認知度に関して、時系列の差はみられなかった(図-2)。

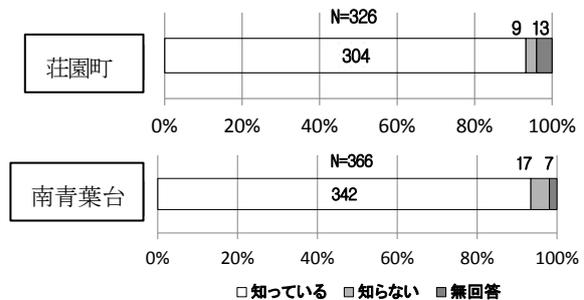


図-2 サービスの認知

(2) 住民の関わり

サービス導入にあたって、両地区ともに約8割が何も関わっていないと回答しており、前述のように、今後サービスを導入するにあたって、住民との事前協議や、説明会を複数回行う必要がある(図-3)。

(3) 先行事例の活用

南青葉台の住民のうち、荘園町でのフリー乗降を知っていた人は2割程度にとどまり、先行事例が有効に利用

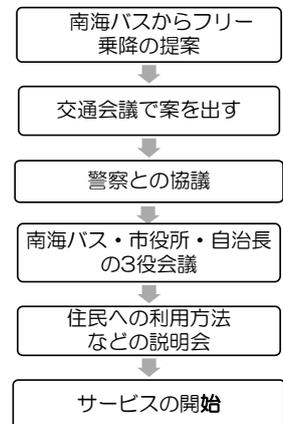


図-1 フリー乗降の導入プロセス

表-2 住民調査の概要

調査時期	2014.1.6	2014.1.14
対象地区	荘園町	南青葉台
サービス開始	2011.7	2013.10
調査方法	ポスティング(郵送回収)	
配布数	636	733
回収部数	326	366
回収率	51.2%	50.0%

されていないことがわかった(図-4)。しかし、認知していた人の4割が、地区への導入に役に立った・参考になったと回答していることから、先行事例の説明や紹介は、他地域での導入の際に、効果があると考えられる(図-5)。

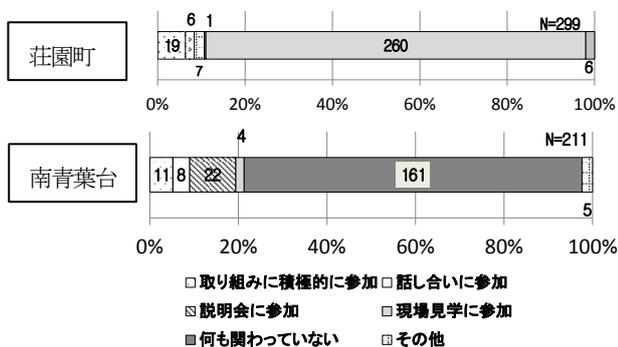


図-3 サービス導入に対する住民の関わり

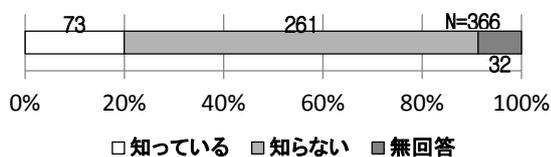


図-4 南青葉台住民の先行事例の認知

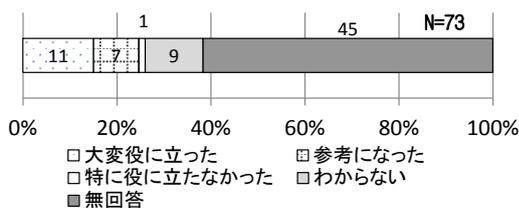


図-5 先行事例の活用

(4) サービスの利用状況と効果

サービスの利用状況は、荘園町で65%、南青葉台で30%と、導入後の時間経過によって利用率が高まると言える(図-6)。また、サービス利用者の半数以上が、バス利用が増加したと回答しており、フリー乗降サービスによるバス利用促進効果が期待できると考えられる(図-7)。

一方、サービス利用の理由を複数回答で尋ねたところ、バス停までの距離や坂道の負担の軽減という理由が約4割になり、その傾向は高齢者の方がよくみられた(図-8)。そのため、サービス目的の1つである高齢者支援の効果が期待できた。

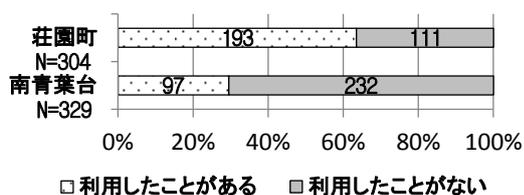


図-6 サービスの利用状況

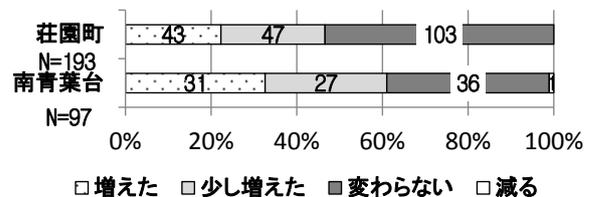


図-7 バス利用頻度の変化

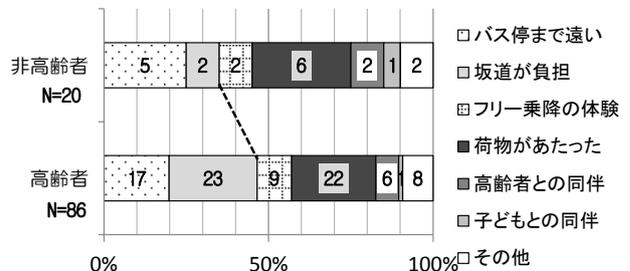


図-8 サービス利用の理由(南青葉台地区)

(5) 住民の意見と新たな課題

フリー乗降に関する自由意見からは、サービスの効果を実感する一方で、停止時間の増加によるバス定時性の低下、安全面の懸念、降車の際の問題(声掛けのタイミングやためらいなど)の指摘もあった。これらは、今後改善が必要な課題と言えるが、その検討のためには、導入時に設置された協議会などを継続的に開催し、随時意見交換と改善策の検討が重要になると考えられる。また、このことは、サービス導入プロセスにも位置づけておく必要のあることは言うまでもない。

4. 本研究の成果と今後の展開

本研究の結果から、フリー乗降サービスは、特に坂道の多い団地などにおける高齢者のバス停までの移動軽減に有効であり、結果的にバス利用とそれに伴う外出機会の増加にもつながる可能性のあることがわかった。しかし、停止時間の増加や降車の問題などの利用者からみた問題点や、安全性や乗客対応などの乗務員からの問題もあり、それらの情報交換の場の必要性も示唆された。加えて、同様のサービスを他地区に円滑に導入するためにも、それらの情報の蓄積によって導入プロセスを確立することが課題と言える。

謝辞

本研究に当たっては、河内長野市地域公共交通会議の関係各位、並びにアンケート調査に協力いただいた地区住民の方々に、記して感謝の意を表します。